様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年　5 月　21 日現在

機関番号：12601
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2009～2011
課題番号：21530873
研究課題名（和文）　日本版トラッキングの国際比較研究―教育における共生と社会的公正の考察
研究課題名（英文）　A Cross-National Study of the Japanese Model of Tracking: Coexistence and Equity in Education

研究代表者　恒吉　僚子(Tsuneyoshi Ryoko)
東京大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：50236931

研究成果の概要（和文）：日本の社会学的トラッキング研究においては、高校入学時点で顕著な振り分けが行なわれる日本的教育制度の特徴を背景として、高校間格差を扱ったマクロ的な(量的）研究の蓄積が豊富である。一方、アメリカを中心とした国際的な議論の中では、むしろよりミクロなレベルにおける教授法や選抜プロセス、学習等の教育実践に近い関心から、日本においては軽視されがちな、人種・民族的マイノリティに代表されるマイノリティ（学業不振がそこの絡む）の権利を視野に入れた機会均等、社会的公正の問題としてトラッキングは社会問題化してきた。本研究においては、こうした認識から、学校内のミクロなプロセスに注目し、マイノリティ（人種、民族、階層等）への視点、文化的多様性への視点を組み込みながら、日本版のトラッキングについて学校観察、インタビュー等のフィールドワークによって考察した。そして、従来、脱トラッキングにおいて国際的に注目されてきた協同的な学びについても、日本型の学校システムに組み込まれている全人格的な人間形成教育とのつながりを分析した。

研究成果の概要（英文）：Sociological studies of tracking in Japanese schooling have traditionally focused on between-school tracking. This is due to the fact that the first largest selection in Japanese schooling occurs at the end of compulsory education, as students move from junior to senior high school. On the other hand, international discussions on tracking, notably in the United States, have focused on the micro level in-school tracking, on teaching, the selection process, and learning. Tracking in the international context has also been tied to issues of equity. The rights of underachieving minorities, especially racial and ethnic minorities, have been a major focus in the international discussions of tracking. With such issues in mind, this research attempted to analyze the characteristics of tracking in Japanese education with a focus on minorities and multicultural issues. The study used school observation, interviews, and other fieldwork techniques to this end. In addition, the study analyzed components of the Japanese model of schooling, such as the emphasis on educating the whole child, which could counter the negative effects of tracking.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教育社会学
キーワード：比較教育、トラッキング、マイノリティ

１．研究開始当初の背景

学力格差は日本の中でも教育問題として注目されるようになっている。しかし、日本の場合は、「学校間」格差に従来、視点が向く傾向があったために、「学校内」の格差が生じるプロセスに充分目が向いてこなかった。また、国際社会においては中心的な課題でありながら、日本国内においては意識化されることが少ない、民族等の属性によるヴァリエーションが比較的注目されずにきた。さらには、日本型の学校の仕組みがどのようにこうしたことに関わるのかの国際比較はほとんどなされてこなかった。

２．研究の目的

どのような家庭背景や属性等を持つ児童生徒がどのような教育の機会を持つかは、多くの国で民族や人種間格差、階層格差等と結び付けられて教育の機会均等や文化的な多様性と社会的公正の問題として議論され、社会問題化してきた。こうしたテーマを扱ってきた一つの代表的領域が教育上のライフチャンスに関わるプロセスとしての「トラッキング」(tracking) である。この場合のトラッキングは学校内格差と学校間格差の両者にまたがるものである。日本の社会学的トラッキング研究においては、高校入学時点で顕著な振り分けが行なわれる日本の教育制度の特徴を背景として、高校間格差を扱った実証研究、進路選択、学歴、階層等と絡められながらのマクロ的な（量的）研究の蓄積が豊富である。一方、アメリカを中心とした国際的な議論の中では、むしろよりミクロなレベルにおける教授法や選抜プロセス、学習等の教育実践に近い関心から、日本においては軽視されがちな、人種・民族的マイノリティ（とそこに絡む学力不振層）に代表されるマイノリティの権利を視野に入れた機会均等、社会的公正の問題としてトラッキングは社会問題化してきた。本研究においては、こうした認識から、学校内のミクロなプロセスに注目し、マイノリティ視点、文化的多様性への視点を組み込みながら、「日本版トラッキング」の特徴を、国際比較を用いて相対化し、マクロな枠組みとミクロな教育実践の両面から浮き彫りにし、教育における文化的多様性と多文化共生、社会的公正をめぐる研究領域に接近しようと考えた。そして、日本型の学校や教育システムが持つ課題や可能性を模索しようとした。

３．研究の方法

内外既存研究の整理、上記問題に接近するのに有利な条件を持つ小学校・中学校でのフィールド・ワーク、教員、生徒、地域関係者インタビュー、小・中連携等の観察を三年にわたって継続的に行なった。日本の特徴を考察する過程で、海外でのインタビュー調査も行なった。

４．研究成果

上記学校でのフィールドワーク等を通じて、
（１）文化的多様性・多文化共生に力点を置いてマイノリティを軸に国際比較の視点を持ちながら、日本型トラッキングの様相について考察した。
（２）筆者は以前から国際比較を通して、日本型教育システムの課題や可能性を浮き彫りにする観点から、格差是正に有効だとされる、協同的な学習や活動の場面に注目してきた。学力や背景の異質な児童生徒の協同的学習は海外においても狭義のトラッキング（学校内）に対抗する措置として提示されてきたものである。そうした中、日本型学校システムの一つの特徴として、協同的な学習を含む形で、授業に限らず、学校の全時間にわたって展開されている全人格の育成を目指す教育のあり方に注目した。その一環として協同的な活動を教室内に限定しない日本型の仕組みの一つの軸である特別活動関係の教師資料の英訳と解説をまとめ、教員組織のホームページで発信できるようにした。社会的公正を視野に入れながら、全人格的な人間形成教育を一つの切り口として、本研究テーマが扱う課題の克服と国際的な日本型の位置付けを模索した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

1 Tsuneyoshi,R.“Three Frameworks on Multicultural Japan: Towards a More Inclusive Understanding.” *Multicultural Education Review* Vol. 3, No. 2 (KAME, Korean Association of Multicultural Education), 2011, pp. 125-156.
（査読有）

〔学会発表〕（計１件）

1 Tsuneyoshi,R. “Educating for Multicultural Coexistence in Japan: Towards a More Inclusive Framework,” keynote speech for the annual meetings of the Korean Association for Multicultural Education, Jeonju, Korea. 指定講演者。2011年5月14日.

〔図書〕（計４件）

1 Tsuneyoshi, R. “Communicative English in Japan and ‘Native Speakers of English’,” Houghton, Stephanie, Damian Rivers, eds. *The Native-Speaker English Language Teacher: From Exclusion to Inclusion*, Houghton & Rivers, 2012, pp.159-175. （査読有）（分担執筆）

2 Tsuneyoshi, R. “The ‘Internationalization’ of Japanese Education and the Newcomers: Uncovering the Paradoxes.” *Reimagining Japanese Education: Borders, Transfers, Circulations, and the Comparative*, David Blake Willis and Jeremy Rappleye, eds. Oxford:Symposium Books, 2011, pp. 107--126.
(査読有)（分担執筆）

3 Tsuneyoshi, R. “Cultural Diversification and Japanese Education: Social Constructions of the New Diversity,” in *The International Encyclopedia of Education*, vol.1, 3rd Edition, edited by Penelope Peterson, Eva Baker, and Barry McGraw, Oxford: Elsevier, 2010, pp.787-792. (査読有)（分担執筆）

4 Tsuneyoshi, R., Kaori Okano, and Sarane Boocock eds. *Minorities and Education in Multicultural Japan: An Interactive Perspective.* New York: Routledge, 2010. (272 頁)
（査読有）（分担執筆）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://zenshougyouken2009.jp/（全国小学校学校行事研究会に一部成果リンク建設途中）

６．研究組織
(1)研究代表者
（１）
恒吉　僚子（Tsuneyoshi Ryoko）
東京大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：50236931

(2)研究分担者
（０）

研究者番号：

(3)連携研究者
（０）

研究者番号：